学校だより「 ㊤㊦㊥㊧ 」

㊤㊦　はつらつとした子　　㊥　やさしい子　　㊧　まなぶ子
（きらきら）　　（ほかほか）　　（ぐんぐん）

令和５年８月２９日　第２７号　壱岐市立初山小学校　文責：校長　野間　恭介

平和集会を行いました

８月９日の登校日が台風接近のため中止となり、実施をすることができなかった「平和集会」を、８月２８日（月）に実施しました。
折り鶴についての紹介や図書ボランティアの方による紙芝居「瞳の中の子どもたち」、校長の話、黙祷などを行いました。「瞳の中の子どもたち」は体験を紙芝居にしていて、聞いていて涙が出そうになりました。子供たちも真剣に耳を傾け、平和の大切さについて学ぶことができました。
私は、初山小学校の子供たちに、１９４５年（昭和２０年）８月９日午前１１時２分に何が起こったのかを知ってもらい、改めて平和について考えてほしいと思い、以下のような話をしました。

初山小学校のみなさん、５、６年生の発表や坂口さんの読み語りから、８月９日という日について、また平和の大切さについて、学ぶことができたのではないでしょうか。
７８年前に起こったこと、私たちはまだ生まれてはいませんが、そのときのことを決して忘れてはいけません。そして、被爆者の皆さんの高齢化が著しい今、私たちがこのことを多くの人々に伝えていかなければなりません。
では、改めて、７８年前のことについてお話をします。
１９４５年（昭和２０年）８月９日午前１１時２分、アメリカの戦略爆撃機Ｂ２９ボックス・カー号から投下された一発の原子爆弾は、現在の爆心地公園の上空約５００ｍで爆発しました。爆発の瞬間には、その中心温度は数百万度、地表の温度は３０００～４０００度に達しました。鉄は約１５００度で溶けます。
はげしい閃光につづく天も裂けるような轟音、そして強烈な熱線と爆風、放射能。原子爆弾は、地上にあるすべてのものを一瞬にして吹き飛ばし、ねじ曲げ、押しつぶし、焼き払いました。市街地は一面の焼け野原となり、多くの人間や動物の生命を奪い、植物を焼き、枯らしました。
当時の長崎市の人口は２４万人で、そのうち亡くなった方が約７万４千人、負傷者は約７万５千人に上りました。放射能の影響で、今なお苦しんでいる方もいらっしゃいます。
ある被爆者の方が平和について、次のように話していました。「平和とは人の心の痛みがわかること、自分の側にいる人に関心をもち、側にいる人がどんな気持ちでいるのかを感じることが大切です。」
私は、「平和とは水や空気みたいなもの」と考えています。「水や空気」が無ければ、私たちは生きていけません。そして、私たち日本人は「水や空気」はあって当たり前と思っています。はたしてそうでしょうか。環境破壊がどんどん進んでいくと、あって当たり前では無くなっていきます。私たちが一生懸命努力しないと、「きれいな水、きれいな空気」を手にすることはできなくなります。平和も同じだと思います。平和な毎日を手にするためには、不断の努力が必要ということです。
ユネスコ憲章の前文には、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」と書かれています。
それぞれが、「平和って何だろう」「平和な世界にするために、自分は何ができるだろう」と考えることが大切だと思います。そして、できることからはじめることです。
今日の集会がそのきっかけになってくれることを期待しています。

２４時間テレビ46「愛は地球を救う」チャリティー街頭募金ボランティア

壱岐市社会福祉協議会より、１学期の終わり頃に、標記のボランティアについて募集のお願いがありました。子供たちに募集のお知らせをしたところ、４年生の **「新井朝陽さん・山口熙一さん」** が参加を希望してくれました。
街頭募金は２７日（日）の午前中に行われました。２名の担当は「スーパーイチヤマ」で、様子を見に行くと、笑顔で元気よく募金の声かけを行っていて、たいへんうれしく思いました。